

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
阿久比町	英比地区(板山、福住、白沢、坂部、卯之山)	令和3年3月23日	令和5年3月30日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	356.2ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	250.2ha
③地区内における75才以上の農業者の耕作面積の合計	140.8ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	56.3ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	56.5ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	18ha
(備考) アンケート結果 規模の縮小・離農を考えている方の農地中間管理機構利用意向は32.5haである。	

2 対象地区の課題

<p>アンケートの結果である75才以上で後継者未定の耕作面積56.3haと、今後中心的経営体が引き受け意向のある耕作面積18haを比較し、今後38.3haの農地が引き受けされないおそれがあるため、新たな担い手を地域内外から求める必要がある。</p> <p>一部の地域では新たな担い手となる新規就農者がいるが、十分ではない。土地持ち非農家が多く地域農業への関心が薄くなっている。関心を高めるような啓発が必要である。</p> <p>農道や用排水路等の老朽化に対応した維持管理を図る。</p>

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

<p>英比地区の水田利用は、18経営体が担うほか、入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受入れを促進することにより対応していく。</p>
<p>英比地区の畑利用は22経営体が担うほか、入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受入れを促進することにより対応していく。</p>

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針

<p>農地中間管理機構の活用方針 農地所有者の希望を尊重しつつ原則として農地中間管理機構に貸し付け、意欲ある農業者等に農地集積をはかることで、将来の経営農地の集約化を目指す。機構を通じて中心経営体への貸付けを進めていくことで、作業の効率化と規模拡大を支援する。</p>
<p>多面的機能支払制度の活用方針 多面的機能支払制度を活用し、農地を始めとする水路、農道等、地域資源の維持・発揮のための地域活動などを推進、集約化しやすい環境を整備する。</p>
<p>作物生産・畜産に関する取組方針 特色である施設花きや畜産についても、地域で更に発展するよう推進していく。土地利用型の水稲だけでなく、今後は果樹・畑作振興も考慮し、現在栽培しているナスを始め新規品目についても積極的に取り組みを行っていく。</p>
<p>就農支援の取組方針等 農作業受託部会のオペレーターの育成確保及び新規就農者の支援を推進し、担い手の拡大を図る。</p>